

中国国内の日本語学習者のBELIEFSに関する調査報告:北京の4大学における調査

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/39676

中国国内の日本語学習者の BELIEFS に関する調査報告 —北京の4大学における調査—

北京師範大学 外文学院 冷麗敏

要旨

本研究は、中国国内の10大学で日本語を専攻とする中国人日本語学習者を対象に BALLI を用い、学習者の BELIEFS 調査を行った研究の一部である。本稿では北京にある4大学の日本語専攻課程の学習者の BELIEFS 調査の結果を報告する。

キーワード：BELIEFS 調査 中国人日本語学習者 言語学習

1. はじめに

2010年より、中国国内の10大学で日本語を専攻とする中国人日本語学習者を対象に BALLI を用い、学習者の BELIEFS 調査を行った¹。本稿はこの調査報告の一部として北京の4大学の調査結果をまとめたものである。

近年、中国の高等教育における日本語教育は、高等教育の大衆化が進んでおり、これに伴った規模の拡大や日本語学習者像の変容が新たな情勢となっている。高等教育の日本語教育にとっては、こういった学習者の対応が直面する課題の一つである。そこで、日本語学習者への教育支援や学習指導に当たり、学習者がどのような言語意識をもって、日本語学習に参加しているのか、これについて知っておくことが課題解決の第一歩だと考える。これが本調査研究の問題提起である。

2. 先行研究と本研究の位置づけ

これまで中国人外国語学習者の BELIEFS に関する調査研究の多くは、主として中国国内で行われたものである。分野別で見れば、英語教育の分野における中国人研究者によって行われたものと、日本語教育の分野における日本人研究者または中国人研究者によってなされたものがある。

前者では主として、中国国内の英語学習者を対象とした BELIEFS に関

¹ 本研究は教育部人文社会科学研究一般プロジェクトの支援を受けたものである。題目：「高等教育中的日语教育基础研究—关于国内日语学习者外语学习观的调查」。プロジェクト番号：11YJ740042

する調査報告(苏晓军:1997;王晓萍:2001;戴炜栋・王栋:2002;唐芳・徐锦芬:2003;饶振挥・郑淑媛:2004;等)と、学習者のBELIEFSと学習ストラテジー、学習動機ないし教師の教室指導について考察したもの(文秋芳:1996;袁晓琳・刘畅・王穗萍・肖少北:2006;张庆宗:2008;等)がある。

後者では、中国人日本語学習者を対象とするものだが、これには、日本人研究者によってなされたもの(板井:1997,1999,2000;岡崎・清水・小山:2000;服部:2002;岡崎:2009)と、中国人研究者(尹松:2001;趙玉婷:2011)によってなされたものがある。ここでは中国人日本語学習者を対象とした調査研究の代表として板井(1997)、尹松(2001)、趙玉婷(2011)を概観する。

板井(1997)は上海復旦大学日本語学科1年次(17名)と3年次(37名)の学習者、及び教員7名を対象に行った調査である。尹(2001)は中国人日本語学習者に対する日本語学習指導への示唆となる基礎データ及び分析結果を提供することを狙いとした研究で、首都師範大学日本語専攻課程の1年生(35名)、2年生(25名)、3年生(29名)を対象としたBELIEFS調査である。両研究の結果から見れば、「大量な反復練習が重要だ」「正確な発音で日本語を話すことが重要だ」と、学習者が伝統的な学習方法を支持することと、日本語の発音を重視することが明らかになった。また、学年別によるビリーフの差(板井:1997;尹:2001)や学習者と教師のビリーフのずれが見られた項目についても報告している。

言語学習について、語彙・文法・翻訳の順に重視する傾向があること等について、尹(2001)は板井(1997)と一致した結果が見られた。しかし、日本語の誤用に対する厳しい態度、4技能の中で「話すこと」と「聞くこと」が「読むこと」と「書くこと」に比べ難しいと感じる点や、学年によってビリーフの差があった項目に関し、板井(1997)とは対照的な結果が見られたと報告されている。尹(2001)は、「一口に中国人日本語学習者といっても、たとえ日本語を同じ専攻としていても、学習者の出身地や学習環境(学ぶ地域)によって差があることが推測される。」(尹:2001,126)と指摘している。

趙(2011)は、異なる地域の4つの理科系大学の日本語専攻課程の学習者302名を対象とした調査である。その結果、学習者が語彙・文法・

翻訳と、伝統的な学習方法を支持することでは、板井 (1997)、尹 (2001) と、学年別によるビリーフの差が出たことは、尹 (2001) とは同様な傾向が見られたとしている。しかし、異なる地域にある4つの理科系大学、つまり出身地や学習環境や学ぶ地域の異なる日本語学習者のビリーフには差が見られなかった。

以上、挙げたように、上述のように、中国国内という学習環境における日本語学習者を対象とし、学年による言語学習観の違いに焦点を当てたことが板井 (1997)、尹 (2001)、趙 (2011) で共通している。その中、本来、異なる地域による学習者のビリーフの差に注目した趙 (2011) では、学年による学習者のビリーフに差があったが、大学によっての差に関しては見られず、学年によるビリーフの差に注目することが更に意義があるとしている。

本研究は、中国人日本語学習者のビリーフの傾向を把握するためには、今後、積み重ねた調査が必要とされると考える。特に学習者のビリーフに関し、学年の差や異なる地域の学習者のビリーフを把握することが必要である。また、これは中国の日本語教育現場における日本語教育支援や教室指導には、基礎的且つ客観的なデータが提供できることは言うまでもないだろうと考えている。

3. 本調査の概要

3.1 本研究の目的と対象

本稿では、以下のことを明らかにしたい。

研究課題1：4大学の日本語学習者が日本語学習についてどのようなビリーフを持っているか。

研究課題2：学年によってビリーフに差があるのか。

本研究では北京の4つの大学 (以下、「4大学」と称する) における日本語専攻課程の1年生・2年生・3年生・4年生を対象とする。表1は調査対象の内訳である。

中国国内の日本語学習者のBELIEFSに関する調査報告

表1 4大学の日本語学習者の内訳

学 校	人 数	性別			学年				記入 なし
		男	女	記入 なし	一年生	二年生	三年生	四年生	
A	71	12人 16.9%	59人 83.1%		27人 38.0%	23人 32.4%	9人 12.7%	12人 16.9%	
B	76	5人 6.6%	71人 93.4%		20人 26.3%	23人 30.3%	20人 26.3%	13人 17.1%	
C	233	43人 18.5%	188人 80.7%	2人 0.8%	80人 34.3%	71人 30.5%	53人 22.7%	27人 11.6%	2人 0.8%
D	71	9人 12.7%	62人 87.3%		26人 36.6%	22人 31.0%	20人 28.2%	3人 4.2%	
合 計	451	69人 15.3%	380人 84.3%	2人 0.4%	153人 33.9%	139人 30.8%	102人 22.6%	55人 12.2%	2人 0.4%

3.2 調査方法と分析の方法

1) 調査期間：2012年12月～2013年3月

2) 調査票

本調査票は、橋本(1993)のBALLI(Beliefs About Language Learning Inventories)(62項目、英語版)の調査項目を、中国人日本語学習者の特徴に合わせてアレンジしたものである。上記BALLIの調査項目について、まず、中国語に翻訳した。次に、翻訳した中国語版について各項目の内容は元の英語版とでは意味のズレはないか、中国人母語話者の英語教員にお願いして厳正な確認の作業を行った。その後、パイロット調査を行い、慎重な修正を行ったものを調査票の完成版とした。

本調査票は橋本(1993)、板井(1997)を参考にし、調査項目を次のような6つの領域に分類した。

- (1) 言語学習に対する適性(11項目)
- (2) 言語学習の難易度(6項目)
- (3) 言語学習の性質(16項目)
- (4) コミュニケーション・ストラテジー(15項目)

(5) 言語学習の動機(7項目)

(6) 教師の役割(7項目)

3) 分析の方法

各項目に対し、(1)非常に賛成する。(2)賛成する。(3)賛成でも反対でもない。(4)反対する。(5)非常に反対するという、5段階から1つを選択して答えてもらった。収集したデータについて、平均値と中央値(3)と比べて賛成よりか反対よりかを判断した。

4. 分析の結果

4.1 課題1の分析結果

以下、BALLI アンケート調査から得られた結果に基づき、研究課題ごとに分析する。4つの大学の日本語学習者のビリーフについて、「言語学習に対する適性」「言語学習の難易度」「言語学習の性質」「コミュニケーション・ストラテジー」「言語学習の動機」「教師の役割」と、6つの領域の順に分析する。

(1) 言語学習に対する適性

表2は、言語学習に対する適性について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表2 言語学習に対する適性

題号	項目	平均値	標準差
1	孩子比成年人更容易学会外语	1.79	.698
2	有人具有特殊的学习外语的能力	1.82	.652
8	中国人擅长学习外语	2.39	.769
11	任何一种语言当中，都有一些表达方式，只有有母语者才能正确使用	2.43	1.030
15	学会了一门外语的人，再学习另一门外语就更容易了	2.98	.863
16	擅长数学和科学的人不擅长学习外语	<u>3.53</u>	.841
20	有的语言值得学习，而有的语言不值得学习	<u>3.64</u>	.938
25	我具有学习外语的特殊能力	<u>3.18</u>	.885

中国国内の日本語学習者のBELIEFSに関する調査報告

31	女性比男性更适合学习外语	2.85	.989
52	会说多种语言的人聪明	2.50	.924
58	任何人都能学会说一门外语	2.33	.970

言語学習に対する適性について、学習者のビリーフは次のような傾向が見られた。表2のように、16、20、25を除いた項目では、ほとんどの学習者が「1. 大人より子供のほうが外国語を学習するのはやさしい

(1.79)」「2. 外国語学習に才能のある人がいる (1.82)」と考えている。

学習者が比較的賛成しているのは、「8. 中国人は外国語学習が得意だ (2.39)」「11. どの言語にも母語話者だけが上手に使いこなせる表現がある (2.43)」「31. 女性は男性より外国語学習が得意である (2.85)」「52. 1つ以上の外国語が話せる人は頭がいい (2.50)」「58. すべての人は外国語が話せるようになる (2.33)」である。しかし、「15. 既に1つの言語をマスターした人は他の言語を学習するのはやさしい(2.98)」に対しては、中立的な立場を取っている。

一方、「16. 数学や科学が得意な人は外国語が得意でない (3.53)」や、「20. 学ぶ価値のある言語もあれば、そうでない言語もある (3.64)」や、「25. 私は外国語学習の特別な才能を有する (3.18)」ことに対しては、学習者のほとんどが否定的な考えを持っている。

以上からは次のようなことが明らかになった。つまり、学習者は「2. 外国語学習に才能のある人がいる (1.82)」こと、「1. 大人より子供のほうが外国語を学習するのはやさしい(1.79)」ことには賛成しており、「8. 中国人は外国語学習が得意だ (2.39)」にも賛同している。しかし、外国語学習の才能について問われた（「25. 私は外国語学習の特別な才能を有する (3.18)」）場合、やや自信のなさが示されている。

(2) 言語学習の難易度

表3は、言語学習の難易度について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表3 言語学習の難易度

題号	項目	平均値	標準差
3	有的外语容易学会, 有的外语不易学会	2.30	0.880
4	日语是一门 (1). 非常难学会的语言; (2). 难学会的语言; (3). 难易适中的语言; (4). 容易学会的语言; (5). 非常容易学会的语言。	2.48	0.731
7	我相信, 通过学习我能说好日语	1.94	0.675
24	你认为如果每天学习一个小时日语, 需要多长时间能会说日语? (1). 一年以下; (2). 一年至两年; (3). 三年至五年; (4). 五年至十年; (5). 根本学不会。	2.93	1.169
56	学日语很难	2.36	0.827
59	日语的“读”“写”比“听”“说”更容易	2.58	0.977

言語学習の難易度について、学習者のビリーフは次のような傾向が見られた。表3のように、学習者は「3. 言語の中にはやさしいものもあれば、難しいものもある (2.30)」に対して比較的賛成しており、「4. 日本語は難しい言語だ (2.48)」、「24. 日本語をマスターするには毎日、1時間勉強すれば、3年～5年はかかる (2.93)」と考えている。しかしながら、学習者が「7. 自分は日本語がマスターできる (1.94)」ことからみると、かなり前向きなビリーフを持っているといえる。

日本語の四技能について、学習者は、「59. 『聞く』と『話す』に比

べ、『読む』と『書く』のほうが易しい (2.58)」としている。全体として、多くの学習者は、日本語が難しい言語だとしながらも、自分が日本語をマスターできると信じている。

(3) 言語学習の性質

表4は、言語学習の性質について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表4 言語学習の性質

題号	項目	平均値	標準差
10	了解日本人の交谈方式和习惯对于说日语很有必要	1.49	0.586
17	日语最好还是在日本学习	2.38	0.895
18	学习外语不仅能了解该国文化，还能加对本国文化的理解	1.88	0.759
21	和外国人交谈时，出现一些不得体的肢体语言无关紧要	<u>3.76</u>	0.921
26	学习语言时，行为举止等一些肢体语言因素也要考虑到	1.93	0.589
28	如果没有老师，是不可能学会外语的	<u>3.14</u>	0.913
29	词汇学习是外语学习中最重要的一部分	2.29	0.900
33	如果想要和外国人交朋友，就必须学会说对方的语言	<u>3.09</u>	0.925
37	语法学习是外语学习中最重要的一部分	2.71	0.939
44	学外语“说”比“听”容易	<u>3.06</u>	1.014
46	外语学习不同于其他的专业学习	2.01	0.748
47	外语学习最重要的是学习将外语翻译成母语的方法	<u>3.25</u>	0.886
48	要想知道一个国家的文化，学习该国语言很重要	1.96	0.713
50	学日语，最好跟日本老师学	2.67	0.808
60	相比中国老师，我更希望跟日本老师学习日语	2.64	0.859
62	中国人之间说日语即无意义也无作用	<u>3.44</u>	0.922

言語学習の性質について、学習者のビリーフは次のような傾向が見られた。表4のように、学習者は、「10. 日本語を話すには、日本人の話し

方や習慣を理解することが重要だ (1. 49)」、「18. 外国語学習は、その国の文化のみならず、自分の国の文化についても理解が深まる (1. 88)」、「26. 外国語を学ぶ時、非言語的要素を考慮すべきだ (1. 93)」、「48. ある国の文化を理解したかったら、その言語を学ぶことが重要だ (1. 96)」に賛成しており、「46. 外国語学習は他の科目の学習とは異なるものだ (2. 01)」との認識を持っている。

また、学習者は、「17. 日本語は日本で学ぶことが一番望ましい (2. 38)」、「50. 日本語教師に日本語を学ぶことが最もいい (2. 67)」、「60. 中国語母語話者日本語教師に比べ、日本語母語話者教師に学びたい (2. 64)」には、比較的賛成な立場を示しており、日本語学習の目的語の国という学習環境や、日本語母語話者教師への期待が示されている。

日本語学習について、学習者は、「29. 語彙学習が外国語学習では最も重要な部分だ (2. 29)」、「37. 文法学習が外国語学習では最も重要な部分だ (2. 71)」と認めているながらも、文法の学習に比べ、語彙の学習のほうがより重要だと考えている。また、学習者は、「47. 外国語学習では目標言語を母語に翻訳するのが最も重要な方法だ (3. 25)」に対しては否定的な考えを持っている。

その他、言語学習の性質について否定的な回答が見られたのは、次の5項目である。「21. 外国人と話す際、適切でない非言語行動をとってもかまわない (3. 76)」、「28. 教師なしに外国語を学ぶことは不可能 (3. 14)」、「33. 外国人と友達になりたかったら、その言語をマスターする必要がある (3. 09)」、「44. 『話す』が『聞く』よりやさしい (3. 06)」、「62. 中国語母語話者間で日本語を話すことは意義がなく、役立たない (3. 44)」。

このように、学習者は、外国語の非言語的行動を重視することと、中国語母語話者と日本語で話すことに日本語の勉強にもなり、外国語学習は教師に依存せず勉強することが可能だと考えている。

全体として、学習者は、外国語学習が他科目の学習とは異なると意識しており、その国の文化を理解することが言語学習にとって重要だと考えている。また、語彙や文法学習、文化や非言語的要素を重要視している。日本語学習についていえば、目的語の学習環境や日本語母語話者教師について学ぶことが求められている。

(4) コミュニケーション・ストラテジー

表5は、言語学習の性質について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表5 コミュニケーション・ストラテジー

題号	項目	平均値	標準差
9	能说一口漂亮的日语很重要	1.61	.701
14	我只有在能正确表述时,才用日语说出来	2.94	.967
19	课堂上学生之间相互商讨决定学习内容和学习计划是浪费时间	<u>3.46</u>	.945
22	只要我遇到日本人,就想和他(她)练习说日语	2.55	.876
23	如果又不懂的日文单词,可以推测	2.08	.674
27	即使老师建议的学习方式我并不喜欢,但我还是会听从老师的建议	2.88	.848
30	重复和大量的练习很重要	1.89	.740
35	(1)跟会日语的中国人说日语时会感到不好意思; (2)跟日本人说日语时会感到不好意思; (3)都不会感到不好意思; (4)都会感到不好意思;	2.50	1.000
36	如果对初学日语的学生不及时纠错,那么今后他(她)很难说出正确的日语	2.04	.831
39	在外语学习的课堂上私人信息不太适合作为话题来讨论	2.69	.876
42	课堂上如果用日语表达,同学听不明白时,可以改用中文表达	2.73	.901
45	跟着录音练习很重要	1.89	.675
49	学习外语不能没有教科书	2.22	.798
55	课堂上,我更愿意和同学做同样的学习活动	2.47	.822
57	如果能够通过自己感兴趣的话题来学习日语,日语学习将会更加有趣	1.71	.688

コミュニケーション・ストラテジーについて、学習者のビリーフは次のような傾向が見られた。

ほとんどの学習者は、「9. きれいな日本語を話すことが重要だ(1.61)」、「30. 大量で繰り返しの練習が重要だ(1.89)」、「45. 録音に従って練習することが重要だ(1.89)」、「36. 初級段階で日本語の誤用が許容されたら、後で日本語を正確に話すことが難しくなる(2.04)」に賛成しており、日本語の正しさを求めることと、大量で繰り返しの練習を好んでいる。特に、「57. 自分たちの興味関心的话题をめぐって日本語を勉強するのが面白い(1.71)」と考え、学習者にとって身近な話題で日本語を勉強することに賛成している。

学習者は、「23. 分からない日本語の単語があったら推測する(2.08)」、「22. 日本人に会えば、日本語で話す練習をしたい(2.55)」と考え、日本語を積極的に話したいことと、日本語学習では推測というストラテジーが用いられていることがわかる。

また、日本語で話すことが恥ずかしいかどうかについて、「35. 日本人と話すとき、恥ずかしいとは思わない(2.50)」と、肯定的な考えが見られた中、「日本語ができる中国人と日本語を話すとき、恥ずかしく思う」が20.0%で、「日本人と日本語を話すとき、恥ずかしく思う」が27%で、「どちらも恥ずかしく思う」が17.3%となっている。

さらに、学習者は、「14. 自分が正しく表現できる場合に限り、日本語で話す(2.94)」に対し、中立的な立場を取っている。

外国語の授業について、学習者は、「39. 授業では個人的な情報を教室の話題としてディスカッションをすることは妥当ではない(2.69)」、「42. 授業では日本語で口頭表現をする際、同級生が分からない場合、中国語にしてもよい(2.73)」ことにやや肯定的であり、教室におけるディスカッションの話題にはやや厳しい姿勢を示しているが、教室の媒介語としての母語(中国語)に対しては、寛容であることがわかる。また、「49. 外国語学習には教科書がなくはならない(2.22)」と考え、「55. 授業では同級生と同じ学習活動をしたい(2.47)」と望んでいる。

学習者は、「19. 授業では、学習者同士によって、授業の内容や流れを決めることは時間の無駄遣い(3.46)」という考えには否定的であり、学習者の主体的な授業参加の意欲が示されている。しかしながら、学習者

は、「27. 教師のアドバイスが気に入らなくてもそれに従う (2.88)」にはやや賛成である。このことから、学習者は、学習者主体の授業参加に意欲を示しながらも、教師主導の授業に対しても受け入れているといえる。また、同級生とは同じ学習活動を行いたいが、個人的な情報をディスカッションの話題にはしてほしくないと考えている。

(5) 言語学習の動機

表6は、言語学習の動機について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表6 言語学習の動機

題号	項目	平均値	標準差
5	(1) 学日语是因为我想要了解日本文化 (2) 学了日语之后, 我开始对日本文化感兴趣	1.69	.464
32	中国人认为学会说日语很重要	<u>3.16</u>	.832
38	我学日语是为了更好地了解日本人	<u>3.04</u>	.947
51	如果我能把日语说好, 就有更多好机会找到好工作	2.24	.771
53	我想通过学习把日语说好	1.80	.684
54	我希望有日本朋友	1.77	.725
61	能够流畅的说日语对我将来的工作会很有帮助	1.90	.736

言語学習の動機においては、学習者のビリーフは次のような傾向が見られた。表6のように、まず、学習者は、「54. 日本人の友達があほしい (1.77)」、「53. 日本語が上手になりたい (1.80)」、「61. 日本語を流暢に話すことが自分の将来の就職には役立つ (1.90)」ことに、強く賛成している。学習者が日本語を話す欲求や、日本語学習が将来の就職のためだといった道具的な学習動機を強く表している。

次に、「5. 日本語学習と日本の文化理解」について、ほとんどの学習者は、「5. (2) 日本語を勉強してから、日本文化について興味を持つようになった (1.69)」と感じており、「51. 日本語ができたら、いい就職の

機会に恵まれる (2.24)」と考えている。このことから、日本語を勉強してから日本文化に興味を持つようになった学習者が、日本語の勉強は、将来のいい就職につながっていると信じていることがわかる。

一方、学習者は、「38.日本語を勉強するのは、日本人についてよく知るためだ (3.04)」や、「32.中国人は日本語をマスターすることが重要だと考えている (3.16)」に対し、中立的な立場を取っている。

(6) 教師の役割

表7は、教師の役割について、4大学の学習者のビリーフを示したものである。

表7 教師の役割

題号	項目	平均値	標準差
6	课堂上的学习活动应该由教师主导	2.70	.740
12	教师比学生更具备一些有效的外语学习方法	2.53	.806
13	作业应该由教师布置给学生	2.86	.738
34	教师的作用是发出指令并且主导课堂	2.97	.913
40	假如自己的外语学习没有进步, 责任在老师	<u>3.88</u>	.735
41	对于学生的评价应该由老师来完成	<u>3.44</u>	.815
43	外语课堂上应讲授文化与风俗习惯的差异	1.92	.706

表7のように、学習者は、「43. 外国語の授業では文化や習慣の違いについて教えてほしい (1.92)」と求めている。また、学習者は「41. 学習者に対する評価は教師によってなされるべきだ (3.44)」に対し、やや否定的である。特に、「40. 言語学習に進歩が見られなかったら、それは教師の責任だ (3.88)」に対して否定的であり、日本語学習における主体的な姿勢が窺える。

一方、学習者は、「12. 学習者に比べ、教師のほうがより効果的な外国語学習方法を知っている (2.53)」、「6. 授業は教師が主導すべき (2.70)」、「13. 宿題は教師によって出されるべきだ (2.86)」、「34. 授業を主導することや指示することが教師の役割だ (2.97)」には、いずれもやや肯定的

な態度も示されている。日本語の学習には主体的な姿勢を示しながらも、授業では教師主導型が好まれていると見られる。

4.2 課題2の分析結果

4つの大学の日本語学習者のビリーフには学年によって差があるかどうかを知るため、収集したデータに基づき、一元配置分散分析(one way ANOVA)およびLSD、GAMES-HOWELL (A)の多重比較を実施し、 $p \leq 0.05$ を有意差ありとした。その結果、17項目においては有意差が認められた(表8)。以下、項目別に述べる。

表8 4大学学年別で差が見られたビリーフの項目

領域	番号	項目	学年 平均値(SD)				sig.	多重比較 の結果 (sig.)
			一	二	三	四		
(1) 適性	2	有人具有特殊的学习外语的能力	1.92 (.697)	1.80 (.628)	1.69 (.629)	1.91 (.586)	.033	一:三 (.006) 三:四 (.040)
	11	任何一种语言当中,都有一些表达方式,只有母语学习者才能正确使用	2.75 (1.048)	2.34 (1.067)	2.18 (.895)	2.22 (.904)	.003	一:二 (.006) 一:三 (.000) 一:四 (.004)

領域	番号	項目	学年 平均値(SD)				sig.	多重比較 の結果 (sig.)
			一	二	三	四		
(2) 難 易 度	4	日语是一门 (1). 非常难学会的语言; (2). 难学会的语言; (3). 难易适中的语言; (4). 容易学会的语言; (5). 非常容易学会的语言	2.32 (.665)	2.45 (.753)	2.53 (.713)	2.87 (.721)	.000	一:三 (.022) 一:四 (.000) 二:四 (.000) 三:四 (.004)
	7	我相信, 通过学习我能说好日语	1.81 (.705)	2.03 (.601)	2.06 (.715)	1.84 (.631)	.000	一:二 (.024) 一:三 (.034)
	56	学日语很难	2.27 (.761)	2.28 (.808)	2.45 (.863)	2.62 (.913)	.020	一:四 (.007) 二:四 (.010)
(3) 性 質	26	学习语言时, 行为举止等一些肢体语言因素也要考虑到	1.86 (.567)	1.88 (.517)	2.01 (.637)	2.15 (.678)	.005	一:三 (.040) 一:四 (.002) 二:四 (.004)
	46	外语学习不同于其他的专业学习	1.86 (.622)	1.94 (.704)	2.22 (.816)	2.25 (.907)	.000	一:三 (.001) 一:四 (.018) 二:三 (.029)

中国国内の日本語学習者のBELIEFSに関する調査報告

領域	番号	項目	学年 平均値(SD)				sig.	多重比較 の結果 (sig.)
			一	二	三	四		
	60	相比中国老师, 我更希望跟日本老师学习	2.69 (.799)	2.68 (.895)	2.36 (.818)	2.95 (.891)	.000	一:三 (.003) 二:三 (.005) 二:四 (.046) 三:四 (.020)
	62	中国人之间说日语无意义也无作用	3.58 (.901)	3.61 (.812)	3.14 (.965)	3.18 (1.002)	.000	一:三 (.000) 一:四 (.006) 二:三 (.000) 二:四 (.003)
(4) コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン ・ ス ト	22	只要我遇到日本人, 就想和他(她)练习说日语	2.32 (.824)	2.63 (.818)	2.64 (.865)	2.84 (1.050)	.000	一:二 (.002) 一:三 (.004) 一:四 (.000)
	36	如果对初学日语的学生不及时纠错, 那么今后他(她)将很难说出正确的日语	1.94 (.780)	2.06 (.787)	2.03 (.917)	2.32 (.872)	.040	一:四 (.004) 二:四 (.049) 三:四 (.038)

領域	番号	項目	学年 平均値(SD)				sig.	多重比較 の結果 (sig.)
			一	二	三	四		
ラ テ ジ ー	45	跟着录音练习很重要	1.78 (.565)	1.88 (.626)	2.06 (.794)	1.93 (.790)	.013	一:三 (.001) 二:三 (.047)
	57	如果能通过自己感兴趣的话题来学习日语, 日语学习将会更加有趣	1.66 (.640)	1.62 (.607)	1.80 (.837)	1.91 (.674)	.023	一:四 (.024) 二:三 (.041) 二:四 (.008)
(5) 動 機	53	我想通过学习把日语说好	1.71 (.592)	1.71 (.607)	1.98 (.783)	1.98 (.828)	.001	一:三 (.002) 一:四 (.012) 二:三 (.002) 二:四 (.010)
	54	我希望有日本朋友	1.65 (.652)	1.71 (.675)	1.90 (.839)	2.00 (.745)	.003	一:三 (.007) 一:四 (.002) 二:三 (.036) 二:四 (.010)

領域	番号	項目	学年 平均値(SD)				sig.	多重比較 の結果 (sig.)
			一	二	三	四		
	61	能够流畅地说日语对我将来的工作会很有帮助	1.86 (.653)	1.76 (.588)	2.00 (.890)	2.20 (.869)	.001	一:四 (.044) 二:四 (.004)
(6) 役割	6	课堂上的学习活动应该由教师主导	2.84 (.750)	2.69 (.711)	2.67 (.763)	2.44 (.688)	.006	一:四 (.001) 二:四 (.030)

有意差あり ($p \leq 0.05$)

言語学習の適性に関しては2項目に差が見られた。まず、項目「2. 外国語学習に才能のある人がいる」においては、三年生は一年生(一年生:三年生<.006>)、四年生(三年生:四年生<.040>)に比べ、有意的に平均値が低く、外国語学習に才能が必要だとする傾向が強く示されている。三年生になれば、日本語学習が徐々に困難なことに遭遇するためだと推測される。

次に、項目「11.どの言語にも母語話者だけが上手に使いこなせる表現がある」においては、一年生は、他の学年ほど賛成ではない傾向が見られた(一:二<.006>、一:三<.000>、一:四<.004>)。これは一年生がまだ日本語に関する知識に触れることが少なく、特に日本語にある独特な表現に関する知識が限られているからであろう。

(2) 言語学習の難易度

言語学習の難易度においては、まず、項目「4.日本語は難しい言語だ」に対し、全体的に賛成よりの意見が見られたが、学年が上がるにつれ、難しいと思わなくなる傾向が見られた(一年生:三年生<.020>、一年生:四年生<.000>、二年生:四年生<.000>、三年生:四年生<.004>)。また、項目「56.日本語は難しい」においても同様の傾向が見られた(一年生:四年生

<.007>、二年生:四年生<.010>)。

次に、一年生は、二年生や三年生に比べ、「7.自分は日本語がマスターできる」(一年生:二年生<.024>、一年生:三年生<.034>)と考えており、一年生のほうがより日本語学習には自信を持っていることがわかる。このことは、高学年になるほど、日本語学習の動機付けが必要となってくることを示唆されている可能性がある。

(3) 言語学習の性質

言語学習の性質においては、まず、低学年ほど、より「46.外国語学習は他科目の学習とは異なるものだ」には賛成であり(一年生:三年生<.001>、一年生:四年生<.018>、二年生:三年生<.029>)、しかも、言語学習における非言語的要素をより重要視している(26.「外国語を学ぶ時、非言語的要素を考慮すべきだ」(一年生:三年生<.040>、一年生:四年生<.002>、二年生:四年生<.004>)。

次に、「62.中国語母語話者と日本語を話すことは意味がなく、役に立たない」に対し、低学年ほど、反対の意見を示しており、(一年生:三年生<.000>、一年生:四年生<.006>、二年生:三年生<.000>、二年生:四年生<.003>)。4大学の日本語学習者は日本語を話すことにおいては、積極的な姿勢を示している。

日本語教師に関し、他の学年に比べ、三年生のほうがより「60.中国人の日本語教師よりも、日本人教師に従って日本語を学びたい」と望んでいる(一年生:三年生<.003>、二年生:三年生<.005>三年生:四年生<.020>)。

(4) コミュニケーション・ストラテジー

コミュニケーション・ストラテジーにおいては、まず、他の学年に比べ、一年生のほうがより日本語を話したいと望んでいる(「22.日本人に会えば、日本語で話す練習をしたい(一:二<.002>、一:三<.004>、一:四<.000>)」)。また、低学年ほど、「45.録音に従って練習することが重要だ(一:三<.001>、二:三<.047>)」、「57.自分たちの興味関心のある話題をめぐって日本語を勉強することが面白い」に対してより賛成である(一:四<.024>、二:三<.041>、二:四<.008>)。

次に、「36.初級段階で日本語の誤用が許容されたら、後で日本語を正確に話すことが難しくなる」に対し、一年生、二年生、三年生のほうが、四年生よりも肯定的であるなかで(一:四<.004>、二:四<.049>、三:四

<.038>)、特に一年生と四年生とでは顕著な差が見られた。このことから、まだ日本語によって表現することが十分に出来ていない低学年ほど、日本語で表現する際、特に語彙面に注目していることがわかる。

(5) 言語学習の動機

言語学習の動機においては、まず、低学年ほど、「53.日本語が上手になりたい」という欲求が強く（一:三<.002>、一:四<.012>、二:三<.002>、二:四<.010>）、しかも、「54.日本人の友達がほしい」と望んで（一:三<.007>、一:四<.002>、二:三<.036>、二:四<.010>）いる。高学年よりも、低学年のほうがより日本人とのコミュニケーションの意欲が高いことがわかる。

次に、「61.流暢に日本語を話すことが自分の将来の就職には役立つ」では、一年生と二年生が、四年生とでは顕著な差が見られており（一:四<0.044>、二:四<0.004>）、低学年のほうが、日本語の勉強は将来の就職のためといった道具的な動機が強い。

(6) 教師の役割

教師の役割においては、高学年、とりわけ四年生が他の学年よりも「6.授業は教師が主導すべきだ」に対して肯定的な考えを示している（一:四<0.001>、二:四<0.030>）。

教師の役割に関し、趙（2011）では学年にピリーフの差が出た（一年生が教師には日本語学習の内容や方法を教えてほしい）が、板井（1997）には教師の役割に関しては学年に差が見られなかった。本研究では、教師の役割に関する学習者のピリーフ、「授業は教師が主導すべきだ」という項目では四年生が他の学年とは顕著な差が見られたのが特徴的といえる。

5. 終わりに

以上、北京4大学の日本語学習者のピリーフ調査の結果について報告した。調査した6つの領域における学習者のピリーフに関し、全体として次のようにまとめられる。

まず、本調査結果は、板井（1997）、尹（2001）、趙（2011）等、中国人日本語学習者を対象としたピリーフ調査の結果とは、多くの項目では一致した傾向が見られた。例えば、「大人より子供のほうが外国語を学習するのはやさしい」「外国語学習に才能のある人がいる」、「日本語は難し

い言語だ」、四技能では「聞くことと話すこと」が「読むことと書くこと」より難しい（尹:2001と同じ結果）と考えていること、日本語の発音の正しさを求めていること、学習者は大量で繰り返しの練習を好むこと、また、日本語学習動機においては、「日本語が上手になりたい」、日本語学習は将来の就職のためといった道具的な動機が示されていること等、上記で挙げた先行研究とは一致した結果が見られた。これらの結果は、中国人日本語学習者のピラーフの傾向として把握することに意義があると考えられる。

次に、語彙、文法、翻訳に関し、従来の上記の先行研究では、いずれも重要視していることと報告しているのに対し、本研究では、語彙と文法は重要視しているが、翻訳は必ずしも重視しているとはいえない結果となっている。

最後に、学習者のピラーフに関する学年の差に関し、全体として、17項目においては学年の差が見られたのが本研究の特徴である。殊に、教師の役割においては、四年生が教室の授業に教師が主導すべきだというのは、非常に興味深い。

四年生になれば、大学院受験の準備だの、留学の準備だの、就職活動だの、特に、就職のために様々な受験に余儀なくされており、とにかく多忙な日々を送らざるを得なくなるのである。

一方、学習者の中では、教師主導の授業と学習者主体の授業と対立させてしまい、教師主導の授業、すなわち、教師が講義に終始するものと判断した可能性もある。もしくは実際に、学習者は教師が終始、講義をしている授業を経験しているのかもわからない。このような状況の中、おそらく学習者主体の教室の、例えば、発表の準備時間や授業前の事前課題の準備の時間など、なかなか持てなくなったため、むしろ教師が講義してくれる授業のほうが、聞くだけで済むので、好都合なのかもしれない。

以上、4大学の日本語学習者のピラーフ調査結果をまとめた。今後、引き続き、さらにデータを増やしていきたいと考える。

謝辞：本調査で使用した調査票の作成に当たり、ご助言をいただいた東

京学芸大学の谷部弘子教授、斎藤ひろみ教授、北京師範大学の林洪準教授、陳則航準教授に、アンケート調査にご協力をいただいた4大学の学生諸君に、あわせて御礼申し上げます。

参考文献

- (1) 板井美佐 (1997) 「言語学習についての中国人学習者の BELIEFS—上海復旦大学のアンケート調査より—」, 『日本語教育論集』 12号, 63-88, 筑波大学留学生センター.
- (2) 尹松 (2001) 「日本語学習者のビリーフについての意識調査—中国首都師範大学の場合」, 『日本語教育研究』 41号, 115-129, 言語文化研究所.
- (3) 橋本洋二 (1993) 「言語学習についての BELIEFS 把握のための試み BALLI を用いて」, 『筑波大学留学生センター日本語論集』 第8号, 215-241, 筑波大学留学生センター.
- (4) 冷麗敏・林洪 (2012) 「中国人日本語学習者対象の BELIEFS 調査研究—について—国内の日本語教育の現状を踏まえて—」, 『応用言語学研究論集』 第4輯、金沢大学人間社会環境研究科
- (5) 関崎博紀 (2009) 中国人日本語学習者の言語学習観の調査—中央民族大学外国語学院日語専業の場合— 『日本語教育論集』, 第24号, 1-7, 筑波大学留学生教育センター.
- (6) 苏晓军 (1997) 高校英语专业学生学习信念研究, 《外语界》(02), 29-33, 上海外国語大学
- (7) 王小萍 (2001) 在职人员外语学习观念调查报告 《现代教育论丛》(04), 61-56, 广东省教育科学研究所.
- (8) 戴炜栋 王栋 (2002) 一项有关英语专业学生语言学习观念的调查分析 《外语界》(05), 24-29, 上海外国語大学.
- (9) 唐芳 徐锦芬 (2003) 大学新生语言学习观念调查与分析 《外语教育》(00)», 华中科技大学外语系.
- (10) 饶振挥 郑淑媛 (2004) 中澳大学生语言学习观念的比较研究 《南昌航空工业学院学报(社会科学版)》, 第6卷, 第3期, 66-69, 南昌工业学院.
- (11) 趙玉婷 (2011) 「工科院校日語专业学生语言学习观念调查」 《日语学习与研究》, 2011年第1期, 总152号, 63-71, 对外经贸大学《日语学习与研究》杂志社.